

「西宮神社御社用日記」出版のお知らせ

分霊社・志津川西宮神社の古文書再生

本殿復興五十年記念事業の一つとして本書が翻刻出版されました。A5版・箱入り・486頁、清文堂史料叢書第120刊として配本されています。

当社は、先の大戦の末期、空襲により本殿始め境内の建物の多くが烏有に帰してしまいましたが、幸い元禄時代以降の日記が残されました。今回は第二巻として配本されています。



出版された「西宮神社御社用日記」

東北の大震災・大津波で甚大な被災をされた、宮城県南三陸町志津川の西宮神社。ここに残されていた本社の発給した古文書も、ほとんどが失われてしまい、古くからの当社との絆までもが薄れてしまう思いでしたが、この度「工房レストア」という事業所により、当社関係文書八点が復元されました。さいわい、文書は震災前年に撮影した写真データが有りだったので、紙質を選び複写し、古色と皺なども再現し、ほぼ元通りに近いものに再生されました。今回再生された文書

は、江戸時代寛保二年から明和六年にかけての、西宮・吉井神主より出された「西宮大神宮神像札賦与免許状」等です。更にこの様な貴重な文化財が復元再生される事を期待します。



再生された古文書

編集室から

●本殿復興五十年境内整備事業は九月二十一日の奉幣奉祝祭をもって全てを完了いたしました。奉幣奉祝祭には東日本大震災の被災地宮城県から、鹽竈神楽保存会の方々からられ神楽を奉納され、祭典では天理大学雅楽会の方が雅楽を演奏されました。また当日は残念ながら悪天候の為、来る事が叶いませんでした。が、淡路人形座も来られる予定でした。平成二十三年は東日本大震災を始めた非常に災害の多い年でした。その中で被災地から奉祝祭に来られた鹽竈神楽保存会の皆様には厚く御礼を申し上げます。被災された方には心よりお見舞いを申し上げますと共に、えびす様のご加護を受けられ、来る年が皆様にとって良き年となりますようにご祈念申し上げます。

西宮神社三田分社がえびす大黒面額を奉納

本殿復興五十年を記念して幾つかの団体個人より、大変ありがたい品々を御奉納頂きましたが、それらは先に発行いたしました「本殿復興五十年記念誌」にご紹介しました。西宮神社三田分社様よりの奉納は、この発行に間に合いませんでした。



奉納されたえびす大黒面額

たのでここにご紹介いたします。横幅約2.7メートル、高さ約55センチメートルの檜の台に取り付けられたえびす大黒のお面です。社務所一階資料展示室入口に掲げて有ります。

参拝の「ごあんない」

正月十日えびす期間中は境内駐車場がご利用いただけません。近隣住民の方の迷惑になるので路上駐車はご遠慮ください。公共交通機関をご利用しご参拝ください。また十日えびす期間には臨時バスも運行しております。正月十日えびす期間の交通規制情報・開門神事福男選り情報などはホームページにて随時更新致しますのでご参照下さい。

お問合せは西宮神社 (Tel 0798833032) 各担当までお願いします。

西宮神社 公式サイト <http://nishinomiya-ebisu.com>

西宮神社公式サイトQRコード



えびす

NISHINOMIYA EBISU
平成二十四年新春号

正月十日えびす

五十年記念事業報告

NISHINOMIYA EBISU

西宮えびす

平成二十四年 新春号

えびす瓦版
諸国探訪／水道筋恵比寿講



平成二十四年の新しき年を迎えられ、謹んでお慶びを申し上げます。

西宮神社 宮司 吉井 良昭

昨

年三月の東日本大震災によって大きな被害を蒙られました。方々に「ころよりお見舞いを申し上げます。複雑に入り組んだ海岸線がどこまでも連なる独特の美しい三陸海岸が、更には恵み豊かな、豊漁の海が再び蘇りますことをお祈り申し上げます。

猛々しく襲う自然の力に人間はなす術もなく、長年に亘って築き上げてきたあらゆる人造物が一瞬間に失われてしまいました。自然とは大きな恵みを齎す一方で、かくも激しく威力を発揮するものかと改めて感じました。自然の中で生きるといふことはこれに抗することではなく、折に触れ自然に「祈り」を捧げるとともに、人間自身の自然への「慎み」のこころを失わないことが大切で、これは先人から受け継いできた日本人の最も心奥に、滔々と流れているこころです。

また過酷な状況下にもかかわらず、被災された人々の互いに譲り合い、助け合う美しいこころに感銘を受けました。自然と共に生き、人々が共に助け合う——忘れかけていた「共生」「共助」のこころが絶望の闇の中から光り輝いて現れてきたようです。

これからは復興が始まります。新しく描かれた都市計画により復旧・復興が進められるでしょう。今から十七年前の阪神大震災のときを思い起こしますと、地域の「まつり」が何よりも大切なことであると気づきます。

震災より三年が経ったころ氏子の方が集まられて、「震災でばら

ばらになってしまった地域をひとつにしたい。そのために神社が中心となり何かできないか」という相談を受けました。その結果、四百年の長い間中断していた海上渡御祭を、氏子の皆さんがこころをひとつにして再興しようということに決まり、震災五年後の平成十二年秋に再興することができました。

人の集合体である地域の中心は、歴史を振り返っても、地図を広げても鎮守の社に佇む「神社」であることに間違いはありません。「共生」「共助」のこころで「まつり」を絶やすことなく、復興の象徴として地域民がこころをひとつにして奉仕、齋行されることを切に望むところです。私たちはそのようなところに共に手を携えていくのではありませんか。

● 昨年、戦禍にあった本殿が昭和三十六年に復興造営されてちょうど五十年目の節目の年にあたり、本拝殿の改修を始め数々の記念事業を行いました。そして九月二十一日の奉幣奉祝祭をもちすべての事業を完了することができました。ここに謹んでご崇敬の皆様方からの篤いご奉賛に衷心より御礼を申し上げます。

● 被災されました多くの方々へこころを寄せ、えびす大神様のご神徳が遍く行き渡りますよう祈念申し上げます。

水道筋恵比寿講

〔鎮座地〕神戸市灘区水道筋四丁目 水道筋商店街協同組合 理事 岡田 和浩氏

神戸市灘区の中ほど王子地区、古くからの住宅地であり大正十五年（一九二六年）ごろより地域の台所として発展してきた水道筋商店街の中心に地元では「汗かきえっさん」と親しまれ、私たちがご奉仕させていただいている水道筋恵比寿さまが鎮座するお社がございます。

この商店街では創業より七十年、八十年というお店も多く、百年を超えるお店もございます。水道筋恵比寿さまは若く新しいえびすさまです。

それは、平成十四年（二〇〇二年）阪急西宮スタジアムの閉場にあたり翌年、アメリカカンファットボールの拠点が水道筋商店街と隣接する神戸市立王子スタジアムに移転することになり、その機会に商店街、社会人と学生の関西アメリカンフットボール協会、スタジアムを運営する、



神戸まつりパレードにも参加

、団体とが協力し、それぞれの普及、発展を目的として王子プロジェクトを立ち上げました。その活動のなかで総本社のお赦しをいただき水道筋恵比寿社を創建、水道筋恵比寿講としてえびす信仰を伝え、お祀りさせていただいて、

行っております。また、えびすさまとアメリカンフットボールをモチーフに着ぐるみを作製しえびすさまの笑顔と優しさを子供たちに伝えようと地元だけでなく各地のイベントやボランティア団体の活動にも積極的に参加しております。

諸国講社のお仲間にもお加えいただき神楽祭などに参列させていただいたばかりでなく西宮まつり渡御祭にも汗かきえびすの着ぐるみや御神輿でのご奉仕をさせていただいていること感謝いたしております。

恵比寿講を

おります。商人の街の中にお祀りさせていただいているえびすさまということで毎月十日に神さまへの感謝と商売繁盛の祈りを込めて正式な時季日程とは異なりますが誓文払いのような行事も

結成して時も短く知識も経験も乏しい私たちですが、えびす信仰と地域の発展のため議員こころを込めてご奉仕に励みたく思っております。これからも末永くよろしくお願いたします。





正月十日えびすの御祈願
 正月十日えびすは、五十年ぶりに改修され、えびす大神様の御神威も増強しました本殿で、一年の報恩感謝と新年の安泰・弥栄を御祈願下さい。

祈禱殿



恵比寿大黒舞



親子獅子舞

今日まで蒐集された全国各地の、えびす様のお人形や絵画、陶磁器類、昔の御神影、その他様々な資料を順次公開展示しています。



本殿遷座祭

先の大東亜戦争の末期、昭和二十年八月六日の空襲により烏有に帰した旧国宝の本殿が、昭和三十六年に元の姿に復興されてから平成二十三年で満五十年。近世になつての吉例に倣い式年造替、本殿拝殿の修復を行いました。併せて新しき時代に相応しい祈禱殿の建設や神池の整備・浄化をはじめとする各種記念事業を計画し、秋の完了を目指し工事を進めて来ました。

八月末に本殿改修を終え、九月二十日は改修なつた社殿にお戻りいただく本殿遷座祭を斎行し、これを奉祝して二十日には奉幣奉祝祭、奉納芸能も本殿斎庭で行われました。東日本大震災の被災地宮城県塩釜市に鎮座する鹽竈神社から、鹽竈神社保存会の方にお越し頂き、「恵比寿大黒舞」と「親子獅子舞」が奉納されました。

また関連事業の一つとして、江戸時代を中心とした社務日誌類及び講社関係の文書の解説と出版を新たに設けた「西宮神社文化研究所」で行い、社務所一階に「えびす信仰資料展示室」を開設し、

「本殿復興五十年記念事業の概要」

〈境内整備事業〉

- ◎ 本殿拝殿の改修 (平成二十三年 九月完了)
- ◎ 祈禱殿の建設 (平成二十二年十二月完了)
- ◎ 神池の改修 (平成二十二年十二月完了)
- ◎ おかめ茶屋の改装 (平成二十二年十二月完了)

〈文化事業〉

- ◎ 西宮神社文化研究所の開設 (平成二十二年 四月開始)
- ◎ 刊行物の発行 (平成二十三年 九月刊行)
(御社用日記第一巻、近世諸国えびす御神影札頒布関係史料集 復興五十年記念誌)
- ◎ 公式ホームページの開設 (平成二十二年十二月開始)
- ◎ えびす信仰資料展示室の開設 (平成二十三年 一月開始)
- 〈その他〉
- ◎ 鎮守の森再生プランの実施 (平成十五年より継続中)
- ◎ 西大練堀の防災工事 (平成二十二年 十月完了)

参道の鳥居の左、このたび新築された祈禱殿では、お宮参り、七五三詣など一年を通して皆様方の様々な御祈願をお受けしております。空調の効いた静かな雰囲気の中での御祈願の後、神池の方へお出になり改装なつた本殿にお参りしていただきます。



祈禱殿



新車のおかい所

えびす瓦版

時の西宮神社社用日記をひもとく「えびす瓦版」。日記は文字だけではなく、絵や図も記されています。今号では二百冊を超える江戸期日記の中から、特に興味深いものを選びました。



西宮神社社用日記にみる、絵や図が記されているものをご紹介します



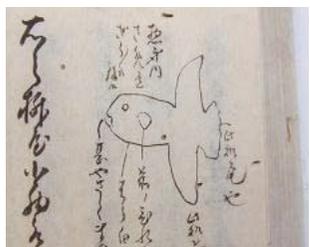
元禄九年(二六九六)五月十日
西宮本社屋根修復
西宮社東門の屋根が南北に三間半落込み当分板を以つて雨除けとしたい願書を尾崎奉行所へ届け



寛保三年(二七四三)開帳の立札
来年三月三日から四月二十三日迄、御神像開帳を知らせる立札。尾崎、伊丹、大坂(二ヶ所)、堺、兵庫などの茶屋などへ頼む。縦三尺余、横一尺八寸程の楕板。



寛延元年(二七四八)一月十日
廣田社屋根覆い
廣田八幡宮五社のこけら葺の屋根が大破に付き、表十五間、奥行九間半、表に二間の庇付き茅葺の雨覆いを造作する願書を大坂へ出す。



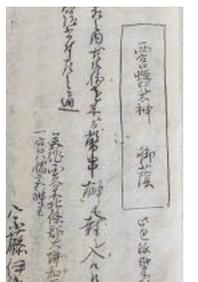
文化八年(八二二)三月二十五日
まんぼう奉納
水主中より献上の魚。舟の下に來たのでモリで取る。見世物にして売り、この銭を初尾として献ずる。且片はおよそ六百貫余りとの噂であった。「腹は白く、口は甚だやさしくまながつおの口のように。ひれとも身とも尾とも分らない」



文化八年(八二二)十二月二十七日
因講へ遣わす御幣
百太夫社を信心の大坂芝居、浄瑠璃語りが諸国から帰り参会の場へ出役し、百太夫氏子入り、講組みのことを頼む。御幣を床に祭り祈禱する。



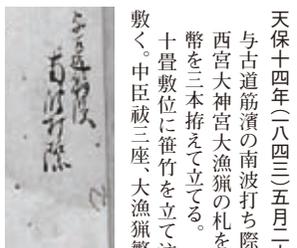
文化十四年(八七七)一月七日
七五三御膳献上
大坂高津氏地の寺島平兵衛より一月九日に神代七五三御膳を献上。それを知らせる立札。寺島は干物屋で料理方をしている。



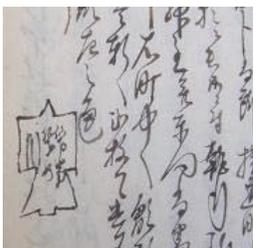
文政二年(八一九)三月一日
美作久米北条郡大井和西村の宮八幡宮神主宗藤伊織に恵美酒大神の神霊を勧請
勧請の箱は長さ八寸横二寸。箱の内へ古勝男木で幣串、神等を封じ入れる。包紙は越前奉書。



文政十三年(八三〇)閏三月二十二日
近衛家白銀
近衛殿家より「盤年山」と号す栗毛の神馬併せて白銀一枚が奉納される。



天保十四年(八四三)五月二十五日
大漁獵の御祈禱
与古道筋濱の南波打ち際で御祈禱執行。西宮大神宮大漁獵の札を四尺程の竹に挟み三本立。幣を三本拵えて立てる。十疊敷位に笹竹を立て注連縄を張り、その内にゴザを敷く。中臣祓三座、大漁獵繁栄祈禱執行。



安政五年(八五八)九月二十七日
悪病祈禱人形
当所横道町、廣田村、中村、越水村、古手古道具仲間より、やはり悪病退散の御祈禱願があり、廣田・西宮・南宮各社で執行する。軒に二枚ずつ雛形を遣わす。

年末年始の行事案内



逆さ門松

大祓人形(表)



(裏)

鯛絵馬



大祓について

大祓は、我々日本人の伝統的な考えに基づき、穢れを人形に移し、神職が大祓詞を奏上し、くもので、常に清らかな気持ちで日々の生活に、いそむよう、自らの心身の穢れ、その他災いの原因となる諸々の罪や過ちを祓い清めることを目的としています。

当日は神職・参列者同拝殿前に集まり身についてた罪・穢れを人形に移し、神職が大祓詞を奏上し、くもので、常に清らかな気持ちで日々の生活に、いそむよう、自らの心身の穢れ、その他災いの原因となる諸々の罪や過ちを祓い清めることを目的としています。

奉射事始祭

元始祭

百太夫神社祭

煤払い

大祓式

除夜祭

歳旦祭

12月 27日 火曜 午前10時
31日 土曜 午後四時
1月 31日 土曜 午後六時
1日 日曜 午前六時
2日 月曜 午前10時
3日 火曜 午前九時半
5日 木曜 午前十一時



商店街での門付



百太夫神社

子どもの守り神でもある百太夫大神

百太夫神社は今から約千年前につくられた「伊呂波字類抄」に本社と並び記されている歴史あるお社です。創祀の経緯は定かではありませんが、地元の人伝承によれば、昔々百太夫という一人の翁(老人)がいて、大変人形操りの技芸がすばらしく、絶えず人形を舞わせてえびす大神の神慮を慰めたといわれ、後にその弟子たちが百太夫を人形操りの始祖としてあげ、功績をたたえて祀ったと伝えられています。記録では百太夫の御神体には童子像の顔に紅白粉が塗りついており、百太夫の神は



百太夫神社御神影

新春初祈禱のごあんない

正月十日えびす期間は特別に本殿にご昇殿いただいて御祈禱奉仕致します。

どうぞ年初めの御祈禱をお受けいただきご神威も新たに蘇ったえびす様より福を授かりますようご案内申し上げます。※ご遠方の方やご参拝の叶わない方は郵送での御祈願も承っております。

◎新春祈禱受付時間

一月一日 午前0時〜午後六時 ※正月十日えびす期間に御祈禱を受けられた方には会館にてご休憩しながら、常磐津「釣女」や淡路人形浄瑠璃「戎舞」をご覧
九日 午前八時〜午後十時
十日 午前六時〜午後十時
十一日 午前八時〜午後十時 土鈴をお渡し致します。

十日えびすの起源は定かではありませんが、商売繁盛の神様としてえびす様を崇敬していた商人達が年のはじめの正月十日に神前に集まり商売繁盛の祈願をこめて参拝することになったのが「十日えびす」のはじまりだと考えられております。



五十年ぶりに改修され、えびす大神様の御神威も増しました本殿で、一年の報恩感謝と新年の安泰・弥栄を御祈願下さい。

九日 有馬温泉献湯式

この奉納行事は、有馬温泉観光協会が平成七年から行っているもので、湯女(ゆな)にふんした芸妓さんが湯のみ太鼓のはやしに合わせ「湯もみ」を披露します。湯もみされたお湯は湯文と共に、ご神前にお供えされます。



十日えびす大祭

居籠神事(いごもりしんじ)と称して翌十日に行われる「十日えびす大祭」に清浄な身体で奉仕する為に神職は十日の午前零時に全ての門を閉じ、忌み籠ります。この

また、江戸時代に記された『社用日記』には氏子達の居籠の様子も記されており、古くは神職だけでなく十日えびすに清浄な身体で参拝するにあたり、もっぱら家中にあつて音響をとめ、静かに忌み籠っていたことが伺えます。

十日 残り福

十日えびすの期間中、お札や福袋などの縁起物をつけた福笹が神社から特別授与されるほか、境内やその周辺には名物の熊手や福箕を売る吉兆店や露店、興業小屋など約八百店が軒を連ね三日間で百万人を超える参拝者で賑わいます。



居籠神事は古くは鎌倉時代の記録にも残る古代の祭典の形を残す伝統行事です。

福箕を売る吉兆店や露店、興業小屋など約八百店が軒を連ね三日間で百万人を超える参拝者で賑わいます。

居籠神事とはやしに合わせ「湯もみ」を披露します。湯もみされたお湯は湯文と共に、ご神前にお供えされます。

十日 居籠神事と十日えびす大祭

当社では古くから毎年正月九日(宵えびす)には

八日 招福大まぐる奉納式

午前九時半頃 神戸市東部水産物卸売協同組合などから大まぐる。大鯛が、青果部からは野菜や果物が奉納されます。



大まぐる奉納

一月八日 午前九時半頃 招福大まぐる奉納式



開門!!



一月十日 午前六時 開門神事福男選び

開門神事福男選びは、午前四時の十日えびす大祭を斎行し、謹慎斎戒が解かれた、午前六時の開門に、氏子達が我れ先に福をもらおうと競い合い参拝したのがはじまりで、今では約五千人もの参拝客が開門と共に一斉に本殿に走り参りをします。



福笹はなぜ笹?



笹は常緑で生命力が強く、また殺菌や薬用の効果があることから古来、様々な神事でお清めなどで用いられてきました。まっすぐに伸びる竹の姿が商売人の正直な心を象徴している、えびす様の持つ釣竿を表しているなど、様々な説があります。福笹には、大判、掛鯛、お札、絵馬や金の巾着袋などの縁起物が付けられています。



西宮神社十日えびす

一月十日を中心に九日から十一日までの三日間行われる「十日えびす」は阪神間における最大の祭典として広く全国に知られ、百万人に及ぶ参拝者で賑わいます。

十日えびすの前賑わいの行事として、次のことが予定されています。

五日 三番叟、箱廻し

午後三時頃
一月五日午前の西宮神社境内社百太夫神社に於ける百太夫神社祭が終わると、いよいよ十日えびすが始まります。

阪急西宮ガーデンズでは「阿波木偶箱廻しを復活する会」による三番叟、箱廻し等が上演され、十日えびすの前触れが行われます。

六日 熊手授与

午前十一時頃
阪神なんば線開通後、早や三度目の正月十日えびすを迎えます。近鉄・大阪難波

駅では西宮神社の巫女により近鉄大阪難波駅長と阪神尼崎駅長に特製の大きな熊手が授与され、祭りの予告を行い、また乗客や通行の人達先着百名にも熊手を配ります。

六日 熊手授与えびす舞

午後三時半頃
阪神梅田駅では、先着三百名に、阪神梅田駅長には特製の大きな熊手が授与されます。

難波駅・梅田駅共に、「淡路人形座」による、えびす舞上演が行われます。

阪神梅田駅長へ特製熊手の授与



三番叟、箱廻し



神社会館での芸能



正月十日えびすは、五十年ぶりに改修され、えびす大神様の御神威も増しました本殿で、一年の報恩感謝と新年の安泰、弥栄を御祈願下さい。

御祈願を終えられた方は、神社会館にお越しくださいと、お茶とお菓子で「服して頂き、九日はえびすさま所縁の常磐津「釣女」、十日は淡路人形浄瑠璃「戎舞」、十一日は西宮中央商店街で活動する人形芝居えびす座の「えびす舞」が御覧頂けます。

また、西宮の町では十日えびすの前夜、忌籠りの晩に田楽と脛を食し、静かに過す習慣があったように、これを偲び、一月十日、御祈

捧をお受けになられ「お茶券」を持って神社会館に来られた方に「田楽(豆腐の串田楽)」を召し上がって頂いており

ます。また試行段階で数も限られていますが(お昼前後に二百食)、お立ち寄りください。



常磐津「釣女」



淡路人形浄瑠璃「戎舞」



人形芝居えびす座「えびす舞」

戎座人形芝居館



戎座人形芝居館



企画展に展示される「えびす引札」

平成十七年、阪神大震災により失われていた活力を取り戻そうと西宮中央商店街の皆さんが「えびすかき再興プロジェクト」の活動を立ち上げ、平成二十年には空き店舗を改装し、「戎座人形芝居館」が商店街の中に出来ました。「えべっさん」一色になる三が日明けの五日午後からの企画展や、ここを拠点に活動する「人形芝居えびす座」の戎舞、人形劇などが順次公開されます。



人形芝居戎座「えびす舞」

白鹿記念酒造博物館

毎年師走から正月十日えびすにかけて企画展「堀内えびすコレクション展」(十二月七日から一月十六日まで)が開催されています。

医師、郷土史研究家であった堀内冷氏が生前に蒐集されたえびすさまに関する様々な品が展示されます。神社から南方へ徒歩十分ほどに在ります。古い酒蔵もご覧になれます。(十二月三十日から一月三日と火曜日は休館、但し、一月十日は開館)



白鹿記念酒造博物館(記念館)



伊万里えびす大黒舟遊び大皿

「西宮・まちを旅する博覧会」



2012 西宮まちたび博

2011.10月~2012.2月



二十三年十月から二十四年二月までプレイベントが開催中です。本開催は二十四年の予定です。詳しくは西宮観光協会ホームページをご覧ください。